

【様式 02】 高大連携公開講座シラバス

* 科目 No.	06202
----------	-------

1. 開設大学	県立広島大学 人間文化学部	開講場所 (キャンパス・施設)	広島キャンパス
2. 科目名	人間文化学への招待—国際文化学科で何を学ぶか—		
	学問分野	番 号	名 称
3. 担当教員	鄭銀志 人間文化学部 国際文化学科 准教授 鈴木康之 人間文化学部 国際文化学科 教授	11	文化・文学
4. 開講期間 (曜日) 開講時間	平成 30 年 7 月 28 日 (土) ~ 平成 30 年 7 月 28 日 (土) 9 時 00 分 ~ 12 時 10 分 (90 分×2 回) ① 9:00~10:30 ② 10:40~12:10		
個別開講日	1 回目 /	2 回目 /	3 回目 /
	7 回目 /	8 回目 /	9 回目 /
5. 募集定員	50 人		
6. 科目内容・ 授業計画	<p>県立広島大学人間文化学部・国際文化学科では、世界を構成するさまざまな文化に対する理解力を持ち、修得した能力を社会に役立てることのできる人を育てます。学生は、主専攻プログラム「英米文化」「日本文化」「東アジア文化」の中からいずれか1つを選んで深く学び、その地域研究に軸足を置きながら、さらに、複数の地域や学問領域を横断的に学ぶ副専攻プログラム「人間理解・国際理解」「比較文化」「比較言語」を選択して履修することもできます。このたびの講座では、多彩な科目の中から次の授業を公開します。本学科ならではの、複眼的な視点からの知的探究を体験してください。</p> <p>① 鄭銀志「色からみる日本と韓国の生活文化」(東アジア文化) 日本と韓国はそれぞれ固有の伝統色を持っています。日本列島や朝鮮半島の人々は、中国の五行思想の影響を受けながらも、「襲の色目」や「セクドン」のように、その地域ならではの個性的な色の使い方を創案・継承しながら、独自の色彩文化を発展させてきました。このような色の使い方は、西洋では到底見られない東洋的な色彩感覚から生まれたものです。本講義では、日本と韓国の生活文化(衣・食・住)にみる色や色彩文化について考えていきます。</p> <p>② 鈴木康之「陶磁器が語る日本中世の生活文化」(日本文化) 1970年代以降、日本列島の国土開発が激化するなかで、多くの遺跡の発掘調査が進められました。そのなかには、鎌倉時代から室町時代にかけての中世の遺跡も数多く含まれています。この時代の研究は、おもに文字に記された資料を読み解くことによって進められてきましたが、中世遺跡から出土した膨大な物質資料は、文字だけではわからなかった社会の実像を明らかにしました。今回は、出土した陶磁器から当時の人々の生活文化を描き出します。</p>		
7. 受講料	無料		
8. 別途負担費用	(テキスト代・実習料等) なし		
9. 開講条件※1 あり・ない	① 最少開講人数 () 人 定員超過の不許可は選考により決定 ② 不許可・不開講通知日 (7月13日(金)以前の開講科目は3月末まで/7月14日(土)以降の開講科目は6月末まで)		
10. その他特記事項	受講者についての制限事項、事前に予習しておく資料・文献など特記すべきこと 特になし		
11. 開設大学への 交通手段	http://www.enica.jp/ から開設大学のホームページにジャンプして確認してください。		

※申込時点で原則、受講できます。ただし、開講条件で不許可・不開講があった場合は受講申込者へ通知します。